

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602033		
法人名	(有)コスモピア		
事業所名	コスモピア高良内		
所在地	福岡県久留米市高良内町3919番地5		
自己評価作成日	H29年3月15日	評価結果確定日	平成29年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「コスモピア高良内」は郊外で市の公園と野球場が隣接した高台にあり、見晴らしがよく、周りは静かな環境です。日常的に外気浴や散歩が無理なく楽しめます、季節の花々を眺めゆったりと過ごす事ができます、桜の季節は公園に花見の方が多く訪れます、ユニット毎に屋根が分かれていて、駐車場も広く、中は天井が高い為、広々としてゆったりとした建物のホームです。
 利用者様は、近隣で協力医療機関のつむら診療所の津村先生とホームの看護師、介護職員と十分に連携をとり、健康面では安心して過ごす事ができます、ご家族との話し合いのもと、看取り支援もこれまでに数例行い、家族の希望に添う支援ができた、これからも、認知症高齢者の介護を繰り返し勉強して、利用者の方、ご家族に安心して利用していただけるグループホームにするべく努力していきたいです

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

それぞれが独立した棟にある2ユニット型グループホーム「コスモピア高良内」は開設から13年と地域に根付いた運営が続いている。すぐ真横には公園もあり、事業所の庭のように散歩などを気軽に楽しめ、桜の時期は地元住民も多く集まっている。母体の関係法人には特養も経営されており、レクや研修などを一緒に取り組むこともある。提携病院との関係は非常に深く、そちらも地元からの信頼が非常に厚い。入居紹介を受けたり、懇意にしており、事業所での看取りを行うことも増えてきた。職員も安定して勤務しており、60歳を超える職員も多いが、かえって近い立場から暖かみのあるサービスを提供し、アットホームな雰囲気を作られている。医療連携に優れているため、病気の早期発見にもつながり、入院時も早期復帰に努めている。これからも地域事業所と協力して地域福祉を支える活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念、方針、私たちの使命」を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で唱和し仕事に取り組む姿勢を日々確認している、理念の浸透ができていないか職員にアンケートをとり確認している	開設時に代表が作った理念があり、玄関やホールに掲示されている。毎朝唱和することで、職員も暗唱できるまでになっている。管理者が「明るい介護職場づくり塾」で学んだ、理念をどう考えているかなどのアンケートを実施し、理念がお飾りにならないよう意識づけも行っている。ユニット独自の理念も設け、意識して理念の実践に取り組んでいる。	管理者以外の職員も実践者研修など外部研修に行くことで、客観的に事業所を振り返り、理念共有や実践の重要さに目を向けられていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	久留米市介護福祉サービス事業者協議会主催のよかよか介護ボランティアの方々に週3日來訪してもらい、地域の情報などを頂いている、近隣中学校の職場体験学習を毎年受け入れている、隣接する特養のお祭りに利用者と毎年出かけている	月に5回程度地域ボランティアが来訪し、お話やレク参加などをしてもらっている。その際に地域の高齢者情報など頂くこともある。近隣特養や小規模多機能事業所との交流はあり、行事参加などもしている。以前は地域行事の参加や、見学の受け入れなどもあったが、最近ではなかった。	町内会の加入を含め、地域活動への積極的な参加が検討されることに期待したい。地域事業所とも協力して認知症の啓もう活動なども考えられてはどうだろうか。保育園からの慰問など近隣施設とも共同した催しや、来てもらえるようなものも良いのではないかと。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域のボランティアの方に事業所の取り組みをお知らせしている隣接する施設と、近隣のグループホームと運営推進会議の相互参加を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の案内を全利用者家族に行き出席を呼びかけている、2ヶ月に一度の開催時、運営報告を行っている、よかよか介護ボランティアの方にも出席してもらい客観的な意見を聴いてサービス向上に活かしている	家族へのご案内は全員に行き、2～3人が参加されている。市職員、地域包括、ボランティアスタッフなどが来られ、今年からは他グループホームとの相互参加もするようになった。運営報告のほか、ヒヤリハット報告なども行き、他事業所の取り組みなども共有している。ボランティアからサービスの客観的な様子の意見も出されている。	議事録の公開がされていないので、閲覧公開や、掲示、郵送報告など、参加されていない家族や参加者にも報告されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者、包括支援センターと運営推進会議の場で相談や空室状況などの情報提供をし、入居後の利用者の生活の様子や心配な点などを伝えている。相談の結果、施設の心配がある利用者を高齢者見守りネットワークに登録する事ができた	運営推進会議には毎回案内して、基本的には参加してもらっている。会議時のヒヤリハット報告などからアドバイスも頂いて運営に反映している。以前、入居者の保護申請の相談があった時は親身に対応してもらった。何かあった時は気軽に連絡も出来るが、運営推進会議時の相談で解決することも多い。地域包括から入居紹介を頂くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、内部研修、外部研修で職員全員が禁止となる具体的な行為について勉強している、やむおえない状況がある方については、アセスメントを十分に行い家族と十分に話し合い経過報告を行っている	玄関施錠はしてなかったが、昨年離設事故があり、それ以降はユニットの入り口を施錠するようになった。万一の際に備え、新たに高齢者見守りネットワークへの登録もしており、近隣からの通報の協力もある。異食行為がある方に、夜間のみつなぎ服の使用があり、家族と医師との説明、同意の上、カンファレンスでも取り上げている。言葉かけなどで注意が必要な際はその都度管理者から指導している。	拘束行為の事例があるが、拘束廃止に向けた経過記録と見直しに向けた話し合いが定期的になされることに期待される。

H29.3自己・外部評価表 外部評価(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、事業所内で不適切なケアが行われていないかどうか、職員間の伝達の中でも確認がとれている、スタッフ全員で毎月のミーティングでも確認している		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会でとりあげている。日常生活自立支援事業は、実際利用されている方がいる為職員も理解している。個々の必要性について心配な方がいる時はまず、社会福祉協議会に相談している	入居後に日常生活自立支援事業の利用が始まった方もおり、社協と協力して支援をしている。以前は成年後見制度の利用者もあり、実例の対応を通して職員も制度理解を進めており、内外の研修も実施しており、パンフレットや資料も準備されている。社協の支援員が毎月来られており、相談しやすい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書締結時は、事前に書類を渡し契約時詳しく、説明を行っている、改定時は速やかに文書を渡し説明している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の家族アンケートの結果を全職員で確認し合い改善につなげたり、面会時に職員が、家族から意見を聴いたり、介護相談員さんやボランティアさんにも意見を伝える機会がある	家族からの意見は面会時に聞くことが多く、半数以上は月1回以上は来訪されている。毎月、担当者からのお便りを発信しており、状況を報告しており、写真を送ることもある。以前情報の齟齬があった際には、個別で回答し、以降は詳細の報告をするように改めている。介護相談員とボランティアが別々で来られており、何かある際には意見を頂くこともある。	直接言いつらいような表面化してこない意見を聞くために、アンケートや家族会など、意見がしやすいような取り組みが検討されることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、月1回のミーティングで改善点などは話し合う機会がある、又アンケートや自己評価表を記入してもらい、そこに意見を書いてもらう、代表との個人面談時にも意見を伝える機会がある	ユニット単位では毎月、全体では2ヶ月ごとのミーティングを行い、基本的に全員が参加している。ミーティング後には参加者からの意見や感想をアンケートで回収し、自己評価表も毎年提出している。概ね年1回程度代表との面談もされている。ミーティング時の意見も言いやすく、以前、カラオケ機の追加導入が実現されそれぞれのユニットで使えるようになった。管理者も現場にいてことで普段から意見も言いやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや自己評価表、ストレスチェック表などを記入してもらい職場環境・条件の整備に努めている代表者との個人面談を設けるなど意見を伝える機会がある		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は、人柄ややる気を重視している年齢や性別による差別はしていない、職員は働くなかで、得意分野を生かして生き生きと働けるよう配置などに配慮している	40歳～70歳代までと比較的年齢層は高いが、かえって落ち着きと暖かみのある雰囲気がつくられている。それぞれ能力や経験を発揮していきいきと勤務しており、レクや飾りつけなど得意な分野に取り組んでいる。研修案内もあり、希望で参加も出来る。休憩時間や休憩スペースも確保されており、希望休暇や職員同士で協力してのシフト編成も柔軟にされている。	研修参加の案内なども積極的にされているが、資格取得やスキルアップの後押しを、事業所主体でされていくことで全体の技能向上に取り組まれることにも期待したい。

H29.3自己・外部評価表 外部評価(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理研究所が発行する「職場の教養」という冊子を教材に用いて、毎日、朝礼時に感想を述べ合う事で、職員の人権に関する意識を高めている、また、尊厳を守るケアについて、繰り返し勉強会でとりあげている、言葉遣いなど、実践の場で、不適切な場面を確認した時は、その都度勉強の内容を振り返るように指導している	毎朝の朝礼は恒例化しており、職員からも感想を述べあって冊子を活用している。昨年、管理者が県の技術向上研修に参加しており、報告書と資料回覧によって内部での伝達もしている。職員が参加した場合も同様に伝達によって共有している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会への参加ができるように勤務体制を整えている、実践と力量についての把握を、今後具体的に細やかに計画をしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加したり、隣の特別養護老人ホームや、近隣のグループホームの運営推進会議に相互に出席して勉強させてもらっている、久留米市サービス事業者協議会の研修ももっと参加したい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、面会に行き入所前の環境を確認させてもらい、直接本人に要望を聴いている又、できるだけ本人にホームにも見学にきてもらっている、体験入所も行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とは、事前に十分にお話を伺う時間を設け、困り事、不安、要望を丁寧にお聴きしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	場合により、他のサービス利用の選択肢もある旨を紹介したり、久留米市が発行している「高齢者支援パンフレット」をみてもらい説明したりしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に(家事)仕事をしたり、マンツーマンで散歩、買い物したり、外気浴、外出を共にする時間を共有している、伝統行事や料理について習ったり、踊りを習ったりもしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくり居室で過ごして頂けるよう配慮している、可能な限り、家族に病院受診はお願いしている、外食や帰宅やドライブなど積極的に支援されている家族もおられる		

H29.3自己・外部評価表 外部評価(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や、お店へ一緒に出かけたり、お寺へお参りに同行したり、知人へ電話をかけた、手紙を出したりするお手伝いをしている	近隣からの入居者も多く、馴染みの個人商店に行ったり、家族に支援してもらって美容室に定期的に行く方もいる。一時帰宅や外泊する方もおり、家族にも協力的に支援してもらっている。家族以外にも以前の近隣の友人や知人などが来訪されている。個別支援により市外の馴染みの場所にお連れすることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方同士で食事が出来る様、食事の場所を配慮したり、レクレーションなども座席などを配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退所後、お亡くなりになられた方の家にお参りに行ったり、家族のご様子を訪ねたりしている、退所後の家族がホームに野菜や果物を届けて下さるなど気軽に立ち寄ってもらっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、「らしきシート」を記入してもらい、暮らし方の希望、意向の把握に努めている、困難な場合は、家族と本人本位の視点を大事にしている	入居時に、家族や関係者から聞き取れる人には「らしきノート」に記入してもらい生活史や入居時の様子などを確認し、意向の把握に努める。アセスメントは基本的に計画作成担当者が行い、随時情報の追記や見直しもされている。見直し時にはカンファレンスや申し送りで情報を共有して現場の意見も取り入れている。	センター方式やひもときシートなどを活用した、より詳細な情報が読み取れるようなアセスメントのやり方が検討されることにも期待したい。ユマニチュードの技法も取り入れながら様々なアプローチが出来るように研鑽されることも望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「らしきシート」にて、生活歴、馴染みの暮らし方生活環境、家族との関係性などの把握に努めている、前利用のサービスについて、事前に情報提供してもらい経過を把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は本人と職員皆で把握している、心身状態、有する力についてケアプラン作成時アセスメントしている、月1回のミーティングで個別カンファレンスを行い確認し合っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は各担当、ユニットで課題を吸い上げ看護師、医師、ケアマネ、ユニットリーダー、本人、家族と意見を出し合い作成している、日々の介護記録はプランを毎回確認しながら、記録している、モニタリングする時記録にて確認している	職員の担当制にもしており、担当職員からの意見を出して、各ユニットの計画作成担当者がプラン作成をしている。プランの短期目標に番号を振り、参照しながら介護記録をとることで、職員間でのプラン共有につなげている。毎月のモニタリングを元にして、半年ごとの見直しも行い、主治医や関係者の意見を聞きながら担当者会議を開催し、チームケアに取り組んでいる。	

H29.3自己・外部評価表 外部評価(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り簿を活用し日々の情報の共有に努めている月1回のミーティングにおいて担当スタッフがそれらの記録を確認し現状報告を行う事で介護計画の見直しに繋がっている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、通院介助したり、家族に代わり、手続きの代行、転居の手続き、生活保護申請、逝去後の葬儀、一連の諸手続きを行った事もある		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	金銭管理で、社会福祉協議会の支援員さんの面会を楽しみにしたり、ボランティアさんの訪問を楽しみにされている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のつむら診療所の先生が毎週往診して、きめ細やかな対応をして下さる、家族との連携を大事にされる為、報告、連絡、相談は迅速に行い、必要時の専門医への紹介状も迅速に準備して頂き、受診につなげている、先生と家族との連携のもと、看取りの支援も行っている	希望があれば外部のかかりつけ医を継続することも出来るが、提携医とはよく連携がとられており、訪問診療も受けられるため、今は全員が提携医をかかりつけにしている。他科受診の際は基本は家族にしてみらすが、行けない場合などは事業所からの支援もしている。毎週の往診と、職員に看護師もいることで健康管理や医療連携もよくなされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきは都度看護師につたえ、定期往診時又は迅速に、介護職と共に医師へ伝えている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と病院の連携室と連携をとり、情報提供を速やかに行っている、退院時カンファレンスにも参加する場合もある		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取り支援についての話をしている。医師から看取り時期についての方針を確認された時に家族に改めてお話ししている、方針が決まったら看取りプランを作成し、皆で共有し看取り体制をとっている、つむら先生の献身的な往診が職員の支えとなり、経験を積んでいる	看取り指針を定めており、契約時に説明し同意を得ている。重度化の際には改めて説明し、希望があれば看取りまで支援をしている。今までに十例以上の方を看取っており、職員も経験を積んできた。提携医も非常に献身的で、夜間救急対応や毎日の往診など親身になって対応してくれている。看取りについての内部研修も毎年している。	ターミナルケアに関しての外部研修の案内は来ているが、なかなか参加には至っていないため、今後は体制を整えて参加につながる事が期待される。

H29.3自己・外部評価表 外部評価(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に1回は救急時の対応についての研修を消防隊員に習っている実技も交えて習っている今後も繰り返し続けていく必要性を感じている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回総合避難訓練を行っている夜間想定訓練も行っている、消防署の方に指導にきてもらい、対策を見直したりしている	年2回のうち1回は消防署にも立ち会ってもらい、昼夜想定を織り交ぜて実施している。以前、近隣の特養の防災訓練に参加したことがあった。数年前からスプリンクラーを配備し、備蓄は水のみをそろえている。協力施設で行われた救急救命訓練にも一昨年から参加している。	食料品も含めて備蓄物の整理を進められることが望まれる。運営推進会議など同日開催することで、地域や家族の参加や取り組みを公開されていくのも良いのではないかと期待している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守るケア、プライバシー保護、について、内部研修、外部研修で勉強している、日々のかかわりのなかで、実践している	資料やマニュアルなども使って、人権に関連して内外での研修も行い、入居者の尊厳を守るケアや声掛けがなされるように気を付けている。入浴や排泄時のケアに関しても過度な露出を避け、プライバシーへの配慮をしている。接遇やマナーに関する自己評価も行い、振り返りにもつなげている。	写真利用も含めて、個人情報利用の際の同意を出来れば書面での説明などによってなされることを期待される。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に希望を伝えてもらえる信頼関係づくりを大事にしている自己決定できる環境を整え支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方の希望を本人、家族に聞いてできるだけ、個別支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自分で選んで着てもらっている、整髪は、2ヶ月に一回ホームでカットができる、希望をきいてカットしてもらう		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、希望を聞きながら、職員が作成し、八百屋さん、魚屋さんへ、買い物と一緒に出かけている、ぼた餅づくり、サンドイッチづくりを一緒に、里芋の皮むき、オレンジの皮むき、筍の皮むきなど一緒に行う、片付けは一緒にお茶碗拭きを行う、花見や敬老の日には、職員が手作りの弁当をつくり、喜ばれている。	メニューは2週間単位で職員が作成し、買い物も入居者と一緒に行き、下ごしらえなどを手伝ってもらいながら調理もしている。ボランティアから差し入れを頂くこともあり、随時メニューを変えることもあり、感想や好みを聞きながら反映もさせている。調理レクやおやつ作りなどを皆ですることもある。日曜は職員も一緒に食事もしている。誕生日には該当の方を個別にお連れして外食に行き、行事食やお弁当を作って外での食事なども楽しんでいる。	

H29.3自己・外部評価表 外部評価(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と相談し、食事量、栄養、水分量の個別対応、状態把握をしている、食習慣など家族、本人から聞いて対応している、食事摂取量が減少している方には、プリンやジュース、ゼリーなど好きな物を準備し少量を数回にわけて対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の先生に口腔ケアの指導を受け、毎食後支援している歯ブラシの種類を工夫したり、個別の対応をしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に時間や回数を記録する事で個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導、声かけを行い、できるだけ、トイレで排泄できるよう支援している。オムツやパットの使用量を減らせるよう、又快適なオムツを使用できるよう、業者の方に意見を聞き、品質の選択を行っている	入居者の状況によって、排泄の時間帯を管理する場合を、回数のみチェックするパターンがある。自立している方は本人から聞き取ったり、見守る対応をしている。状態の進行に伴い、適切なパット選定や下着類の提案も随時行う。改善提案も気づいた時に気づいた職員が申し送りやミーティングで話し合っ対応につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事量、水分量を把握し散歩や体操を促し予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯は事業所側で決めているが、本人の希望を聞き、日程を変更したりする事もある入浴を楽しめるようにゆず湯や入浴剤などを使う日もある、好みの石鹸やシャンプーを使う方もいる	ユニットによって造りが違い、家庭用サイズのユニットバスと、タイル張りの浴槽がある。片方は広めの浴場で2人で一緒に入ることもできる。基本的に昼過ぎから夕方までで、冬場は週2、夏は週3で入浴してもらい、汚染があった際などは随時の対応もしている。拒まれる方も時間帯や担当を変えながら無理強ひせず働きかける。皮膚状態なども観察して、適宜かかりつけ医や看護師にも相談して対処もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望、身体状況により休息、睡眠がとれるようにしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により、居宅療養管理指導をうけており、各個人の薬について把握している、飲みやすいようにする相談などをしたり、週1回の往診時に、津村先生に症状の変化などをこまめに報告している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、買い物、食器の片付け、散歩、外食などを行っている		

H29.3自己・外部評価表 外部評価(コスモピア高良内)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の外出計画を立て、季節の花見に文化センターやひなまつりに、雛飾りを柳川市まで見に出かけたり、みかん狩りへ出かけたりしている、散歩、買い物、お寺へのお参り、誕生日に、外食へでかけたり、している	以前は大型車を借りてユニット単位での外出もしていたが、今は基本的には1対1の対応で個別外出をしている。石橋文化センターや柳川、買い物などしたり、半日程度で外食などもしている。日常的にも敷地内や裏の公園に行ったり、近くのコンビニに行くこともある。車いすの方や意欲低下した方にも働きかけて外出機会を持っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ事で安心される事は理解しており、職員皆共有して認識している、お財布を自己管理してもらい、買い物と一緒に出かけお金を使う方もいる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら、電話をしたり、手紙のやりとりをされる、郵便番号を調べたり、ポストに投函するなどの手伝いをしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような飾りつけや、季節の花を飾ったりしている、音楽やテレビなどの音は好まれない方には迷惑とならない様に配慮している	ユニットによって造りが若干異なり、平屋建てだが、天井高が高いため非常に開放的で採光も良い。観葉植物や花も飾り、季節感が感じられるようにもしている。ホールを中心に居室が配置され、キッチンなどの様子も間近に感じられる。ユニットごとの特色があり、飾りつけも多くにぎやかな側と、落ち着いた雰囲気のある。最近防犯カメラを設置し、不審者への対応のほか、内部でのヒヤリハット分析にも役立っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人や2~3人で掛けられるソファをとこどころに置き、時には、職員がそこで1対1で下肢のマッサージを行ったり、ゆっくり心配事の相談を聴いたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家具や寝具など自宅から持ってきてもらい、家族の写真などを飾って居心地よい空間づくりをしている	居室はタイルカーペットが敷かれており、木調の介護電動ベッドも備え付けられている。ベッド以外の持ち込みも自由で、たんすやテレビ、など自由にされている。ポータブルトイレは必要に応じて事業所から貸与することもできる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている、手すりなど自立して移動したり、立ち上がりやすいように、ベッドの高さなど調節している		